
新納図書

【所載】(入登録番号1578～1583)〔書名・著者・出版社〕順に記載

- 1 『明治大学校友名簿昭和34年』 明治大学校友会本部
- 2 『中央大学学員名簿昭和16年用』 中央大学学員會
- 3 『法政大学校友会校友名簿昭和35年度』 法政大学校友会
- 4 『衆議院議員滝沢七郎 追憶』 滝沢勝人 滝沢工業
- 5 『郷土栃木県大観』 野口航作 聚星莊
- 6 『大石誠之助=大逆転の犠牲者』 絲屋嘉雄 濤書房

▷ 編集後記 ◁

本年度より事務局長を拝命致しました法学部の澤山裕文と申します。事務局長の交代に伴い、本号から編集後記を担当させていただきます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

さて、本号には蔡榮先生、坂詰智美先生、清水俊佑先生より、御寄稿賜りました。蔡先生におかれましては、わが国においても近年問題が深刻化しているインターネット等を介した侮辱行為に関する御論稿を御寄稿いただきました。日中刑法の比較法的検討を通した示唆に富む労作であるとお見受け致しました。

坂詰先生、清水先生からは今村法律研究室主催の企画の開催報告をしていただきました。坂詰先生の御論稿におかれましては、今村先生を知るための貴重な資料である『今村力三郎文庫目録』から、数々の事件を通した弁護士との交流を明らかにしており、そこからは今村先生の人脈の広さが垣間見えます。

清水先生におかれましては、本学出身の法曹にパネリストとなっただき、シンポジウム形式で行われた企画についてご報告いただいております。法曹三者と言われますが、弁護士・検察官・司法修習生という幅広い法曹からの御講演とともに、現役法学部生からの質問にお答えいただけるというのは、法学部生にとってはリアルな法曹と対談できる非常に貴重な機会であったと思います。

今村先生の御業績を伝え継承していくことや、本学法科大学院修了生が法曹として活躍している姿を現役専大生が間近で見られる機会を設けることは一朝一夕にできるものではありません。そのため、このような偉大なる先人の足跡の伝承や貴重な機会を逸さないために、今後も今村法律研究室が主催する企画を開催していきたいと思ひます。

それとともに、これまでの専修大学の伝統を社会に発信していくというのは、今後一層重要性を増していくものと思ひます。そうした先人の残した偉大なバトンを伝え続けるという視点もさることながら、いわゆる比較法的研究の成果の公表は、わが国の法律学の発展に寄与していくことであり、今村法律研究室の使命であるともいえるでしょう。

〔事務局 澤山裕文〕

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8 専修大学今村法律研究室

発行者 岡田好史

電話 (03) 3265-6217(代)

制作・尚学社/〒113-0033 東京都文京区本郷1-25-7 電話 (03) 3818-8784
